

ドレナージバッグI型

再使用禁止

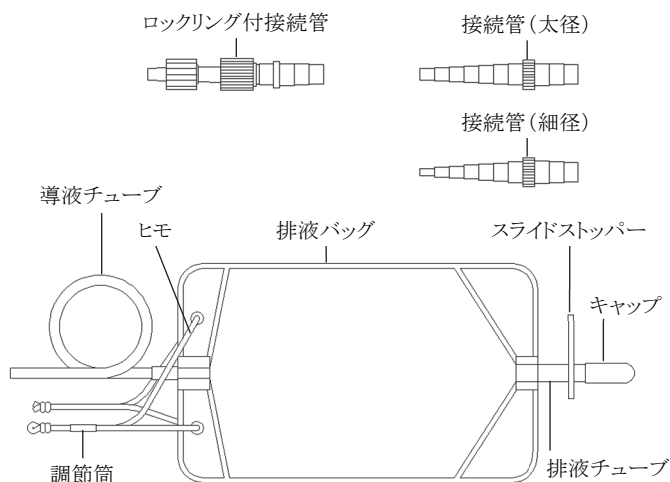
【禁忌・禁止】

再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

* <構造図(代表図)>

経皮胆管ドレナージ法等の胆汁の排液バッグとして使用する。ドレインチューブ等との接続は付属の接続管を用いて行う。



【使用目的又は効果】

ドレインチューブを接続する、1つのチャンバからなるプラスチック製の排液バッグをいう。胸腔又は腹腔ドレナージに接続し、胸腔又は腹腔から血液、空気、膿状分泌物を除去するために用いる。

【使用方法等】

- 1) 接続先のチューブに嵌合する接続管を選択する。
 - 2) スライドストッパーが、排液チューブを閉鎖していることを確認する。
 - 3) 接続先のチューブと本品の導液チューブとを接続管にて接続させる。
- * 4) 備え付けのヒモを固定具等に引っ掛け、本品を吊す。調節筒をスライドさせることでヒモの長さを調節することができる。
- 5) 備え付けのヒモで腰等に取り付けければ、携帯用としても使用できる。

(内容物の排出方法)

- 1) 排液を入れる容器を用意する。
- 2) キャップを外し、排液チューブ先端を容器に入れる。
- 3) スライドストッパーをスライドさせ、排液チューブを開放にする。
- 4) 内容物が全て排出されたら、スライドストッパーをスライドさせ、排液チューブを閉鎖した後、キャップする。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- 1) 使用の際には、汚染に十分注意すること。
- 2) 嵌合部に薬液等を付着させないこと。
[嵌合に緩みが生じる恐れがある。]
- 3) 排液バッグのヒモ側が上になるように保持すること。
[導液チューブより排液バッグの内容物が漏れる恐れがある。]
- 4) 排液バッグ及びチューブは清潔に保ち、内容物は定期的に排出すること。
- 5) チューブを折り曲げたり、押し潰したり、引っ張られた状態で使用しないこと。
[閉塞、チューブ結合部等の破損、外れが生じる恐れがある。]

- 6) 嵌合させる際は過度な締め付けをしないこと。
[接続管から外れなくなる、又は接続先が破損する恐れがある。]
- 7) チューブを鉗子等でつまんで傷をつけないよう注意すること。又、はさみ等の鋭利なもので傷をつけないように注意すること。
[本品が破損し、排液バッグの内容物が漏れる恐れがある。]
- 8) 使用中は本品の破損、嵌合の緩み、及び液漏れ等について、定期的に確認すること。

【使用上の注意】

<不具合・有害事象>

手技に伴い、一般的な不具合や有害事象が発生する恐れがある。有害事象が発生した場合は術者の知見に基づき、適切な処置を行うこと。

1) その他の不具合

- ① 本品破損
- ② 漏れ

2) 重大な有害事象

- ① 感染

【保管方法及び有効期間等】

<保管方法>

水ぬれ、直射日光、高温多湿を避け保管すること。

<有効期間>

箱に記載している使用期限を参照のこと。(自己認証による)

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

<製造販売業者>

株式会社八光
TEL 026-275-0121

<製造業者>

株式会社八光

販売窓口:

東京都文京区本郷三丁目 42-6
TEL 03-5804-8500